



手編みのぬくもりがつなぐ

心と絆



認知症マフが運んできた「共同」の物語

編み物班会
のみなさん
(鈴鹿支部)

現場の課題と、看護師が抱く「オーダーメイド」の夢

もちろん、現場には課題もあります。現在、深刻な看護師不足に直面しており、一人ひとりの患者さんとじっくり向き合う時間を確保することが難しい現状です。しかし、認知症グループの大湯さんは、その先にある希望を見据えています。「その方の思い出や趣味を詰め込んだ、世界に一つだけの『オーダーメイド・マフ』を贈ることができたら……。ご本人が好きなのに囲まれ、ふと笑顔がこぼれる。そんな瞬間をきっかけに、私たちスタッフとの対話が生まれ、心穏やかな時間が流れるようなケアを目指していきたいんです。」大湯さんのこの言葉には、単なる道具としての活用を超えた、一人ひとりの人生に寄り添いたいという専門職としての熱い想いが込められています。

地域で守る、これからの医療と介護

今回のエピソードは、「こんなケアがしたい」という専門職の願いと、「自分たちの特技で力になりたい」という組合員さんの想いが結びついた、医療福祉生協ならではの活動(価値のカタチ)です。人手不足という厳しい現実があるからこそ、地域の人々と病院スタッフが手を取り合い、知恵を出し合うことが、地域の医療を守る大きな力になります。手編みのマフがもたらすぬくもりは、患者さんだけでなく、私たち地域全体を優しくつないでくれています。

津生協病院 認知症 グループ

大湯
看護師



認知症
マフ

認知症マフが紡ぐ、安心と癒やしの時間

みなさんは「認知症マフ(Twiddle Muff)」をご存じでしょうか。イギリス発祥のこのアイテムは、毛糸で編まれた筒状のニット製品です。マフの中にそっと手を入れると、そこには柔らかなぬくもりと、ボタンやリボンといった不思議な手触りが待っています。この視覚や触覚への心地よい刺激が、不安でそわそわしてしまう方の心を落ち着かせ、結果として点滴を抜いてしまうなどの行動を和らげる「身体拘束に頼らないケア」として期待されています。

組合員さんの「特技」が、病院の「願い」に寄り添った瞬間

活動の中で、認知症グループの看護師の大湯さんから「患者さんのためにマフを作っていただけませんか?」と呼びかけました。その声に応えたのが、鈴鹿支部の編み物班会のみなさんです。「それなら任せて!」と快く引き受けてくださった組合員さんたちの手によって、色とりどりのマフが次々と編み上げられ、後日、たくさんの優しさが詰まった作品が病院へと届けられました。

【理事コラム】



おいなおいな

私の好きなこと 津地域理事 北尾 厚子さん

数年前のドクターズカフェで高茶屋診療所の宮崎景先生から「高齢者はたくさん趣味をもちなさい一つできなくなっても次々できるよに」10個ぐらいと聞いて引いてしまった。趣味と言えるもの... 籐細工ぐらいか... あるある多肉植物大好き。よく考えたら班会でやってることあるな〜短歌、コカリナ、絵手紙、習字、忘れていけない健康麻雀〜それに今では三年前から習い始めた二胡。ギーコギーコもちよこっと卒

業できたような... さらに厚かましく、三人で竹鼻笛と二胡のながいきユニット班会をつくり楽しんでいる。趣味は個人でのたのしみもあるけど、それを通じての出会い、つながりが出来る...。さて10個とまではいかないがドクターズカフェで言われた意味はこんなことだったのかと思えるようになった。今では二胡と麻雀に感謝感謝の日々...



2025年度 総括ダイジェスト

第16回 みえ医療福祉生活協同組合

通常総代会 に向けて



2025年度は、「だれもが健康で居心地よくくらせるまちづくり」の実現に向け、誰もが安心して暮らし続けられる地域づくりを事業と地域活動の総合力で推進してきました。物価高騰のあおりや、医療・介護人材の不足等により、医療・介護ともに厳しい経営の現状がありました。引き続きこの状況は続く事が予想されています。安定と持続可能な事業・活動へのシフトが急務となっています。

①健康になれるまちづくり

「仲間と一緒に取り組む健康づくり」が大きく広がった1年でした。

●健康づくりチャレンジ

467名が参加。特にグループ参加(44組286名)が多く、職場や地域で励まし合いながら取り組む姿が見られました。

●減塩の取り組み

全県で37名が24時間蓄尿塩分測定に参加。減塩の喚起を継続しています。

●歩く・学ぶ・体験する

・「人生会議」「認知症観」「口腔ケア」など、専門職を講師に迎えた多様な学習会を開催しました。
・各地での企画で組合員・職員の間で、近隣の方々にお声掛けをし、医療福祉協会の活動を地域に発信しました。他団体の企画にも健康チェック等で関わり、医療福祉協会の活動を広げたいというように取り組んでいます。先行の工夫をこらしたウォーキングが各地で盛んです。

②平和で公正な社会づくり

命と暮らしを守るため、社会課題への学びと行動を強めました。

●平和の願いを次世代へ

被爆80年にあわせた平和講座の開催や、原水爆禁止世界大会への職員派遣など、核兵器廃絶に向けた学習を深めました。

●震災支援と防災

能登震災支援の継続に加え、パッキングや非常用トイレなど、暮らしに役立つ防災学習を広げました。

●医療・人権を守る署名活動

医療機関の存続を求める署名では9,560筆を集め、財政支援の動きにつなげました。

③組織づくり(なかもつづくり)

「孤立をなくす」ための新たな居場所づくりや助け合いが始まっています。

●地域を超えた交流

伊勢で開催された交流集会には約120名が参加し、各地の「イチ押し活動」を体験・交流・学び合いました。

●つながりを生む新しい居場所

・病院のロビーを活用した「えんがわ」や、各地域でのたまり場、誰もが立ち寄れる場所をつくりました。

・伊勢地域では、新支部「御園・厚生支部」が誕生しました。

●組合員の力を活かすボランティア

事業所のちよと困ったを支える「まちかど工務店」(伊勢)が開始しました。他にも各地では病院や診療所への送迎ボランティア、暮らしを支えるいきいきくらしの会」等様々な場面で組合員さんが活躍しています。

④事業活動の強化

質の高い医療・介護を提供し続けるための基盤づくりを進めました。

●在宅支援の充実

全ての診療所で訪問診療に取り組み、利用者数を伸ばしました。

●より良い介護のために

介護職員の交流会を開催し、専門性を高め「その人らしさ」を支える実践を共有しました。

●持続可能な経営

津生協病院での地域包括病床の拡大や、業務効率化・経費削減に取り組み、収益を改善しました。全事業所で5S・3M活動を強化し、安全な職場環境と業務効率を進めています。

2026年度 活動方針案ダイジェスト

①「みんなの力」で健康になれるまちづくり

健康づくりを個人の努力に留めず、地域全体の文化にしていきます。

●班会の充実と拡大

セラバンド、ウォーキング、脳トレなど、多彩で楽しい班会を通じて健康の輪を広げます。

②平和で公正な社会づくり

いのちと人権を守る「地域の砦」として、声を上げていきます。

●平和と憲法

憲法公布80年を節目とした学びや、被爆者の声を次世代へ届ける活動を行います。

●環境と防災

気候危機への対応や、災害時にもつながり合える地域づくりを進めます。

③なかもつづくり

「できるときに、できる人が、できることを」を大切に、組織の力を強めます。

●参加のハードルを下げる

SNS等を活用して活動を「見える化」「見せる化」します。活動参加へのハードルを下げ、間口を広げ様々な方が参加できる工夫をすすめます。

●対話の重視

組合員一人ひとりの願いを対話でくみ取り、楽しい班会や仲間増やしにつなげます。組合員本人だけでなく、家族全体に目を向けた活動づくりをすすめる、医療福祉協会の理解・参加を高めます。

●機関誌の活用

つながりのツールである機関誌の活用をすすめます。

④組合員の願いを実現する事業活動

暮らしを支えるための質の高い事業(医療・介護)を継続します。

●保健予防から治療まで

健康チェックから早期治療へつなげる活動や、在宅医療を重視します。

●生活を支える介護

日常生活を支える「生協10の基本ケア」を学び、介護の質を高めます。

●共に支える経営

必要な専門職の確保や資金の確保について、組合員と職員が協力して取り組みます。

●理念の実践

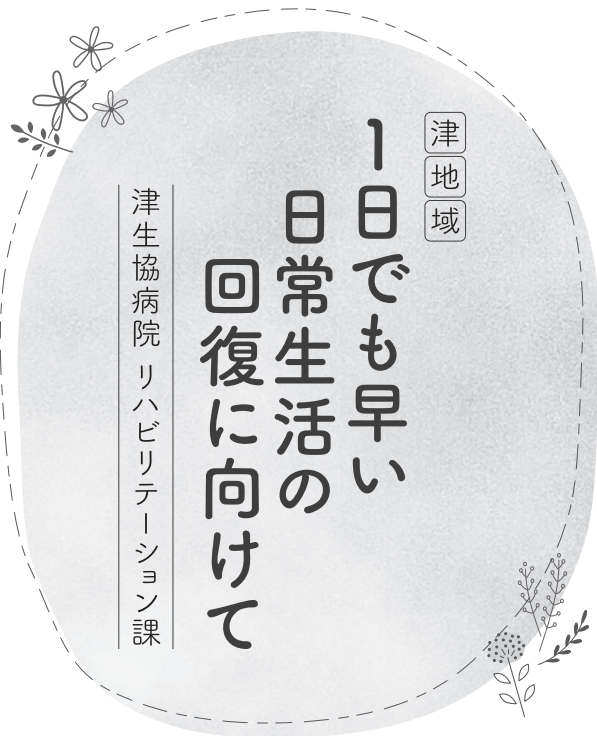
医療福祉協会の理念を実践する職員育成・育ちあいの職場づくりをすすめます。

第16回 みえ医療福祉生活協同組合

通常総代会のご案内

日時: 2026年6月28日(日) 9時30分~12時30分(予定)
会場: 河芸公民館(津市河芸町浜田742)

【お問合せ】 組合員活動センター 059-213-8668



◆ チームで支えるリハビリテーション体制

当院では、病棟配属の理学療法士13名、作業療法士8名、言語聴覚士6名、事務1名の合計28名が在籍しており、患者さん一人ひとりに寄り添ったリハビリテーションを提供しています。主に急性肺炎や誤嚥性肺炎、尿路感染症、脳梗塞、慢性心不全などの病気で入院される方が多くいらっしゃいます。治療と並行して、早い方では医師の指示のもと入院早期から、理学療法・作業療法・言語聴覚療法を開始し、歩く・食べる・話す・身支度をする・入浴するなど、生活機能の改善をサポートします。

◆ 早期退院をめざした多職種連携

患者さんが安心して退院できるように、主治医・看護師・薬剤師・地域連携スタッフ・事務職員などが定期的に話し合いを行っています。会議では、病気や機能障害の状況をふまえた評価をもとに、栄養状態や退院後の生活環境について確認し、早期退院を目指します。また、必要に応じて患者さんのご自宅に訪問し、手すりの設置場所や安全な動線の提案を行うなど、より具体的な生活支援も進めています。

◆ 退院後のサポート

退院後も患者さんの健康と日常生活を支えるため、当院の通所リハビリテーションや訪問リハビリテーション、メディカルフィットネスと連携しています。立つ・歩く・着替え・トイレといった日常の動作を維持・改善するために、多職種と連携しながらリハビリの進捗や必要な支援について情報を共有し、疾患や障害が重症化しないよう継続的にサポートします。

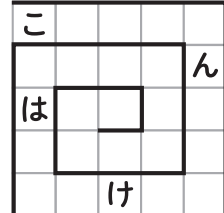


このように、私たちは患者さんが一日でも早く元の生活に戻るよう、お手伝いしています。

脳トレ! みんなのえがおクイズ

ぐるぐる文章

文章がつながるように、盤面の左上からぐるぐると中心に向かってリストの文字列を入れていくパズルです。盤面の途中の文字がヒントです。例題を参考に挑戦してください。



リスト: どのてん、のこご、ぶらよ、だてはた、んとう、んやのこ

答え

あ	か	ず	き
い	お	お	ん
る	み	か	を
わ	う	ら	ね

例題 (リスト)

を	ね	ら	う	あ	か	ず	き
る	い	お	か	み	わ		ん

5月号の答え: まめまき(豆まき)→きょうい(教育)→くれおぼら(クレオパトラ)→らんこうげ(乱高下)→げんまい(玄米)

応募方法① ハガキに、①答え ②住所 ③氏名 ④電話番号 ⑤「みんなのえがお」へのご意見・感想をお書き添えのうえご応募ください。抽選で5名の方に500円のQUOカードを差し上げます。

送り先 〒514-0803 津市柳山津興1548 みえ医療福祉生活協同組合 組合員活動部

締切日 ハガキ・QRともに2026年6月20日(当日消印有効) ※当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。



お願い

●転居および氏名に変更があった場合は、組合活動部(059-213-8668)までご連絡ください。なお、定款に基づき、毎年定期的に全組合員に対して「みんなのえがお」を郵送し、住所の確認を行っています。住所の確認ができず、3年間連続して郵便物が返送されてきた場合は、みなし脱退の対象となります。
●機関紙は組合員のボランティアが手配りでお届けしています。郵送で届いている方で、ご近所への配布にご協力いただける方は、最寄りの組合員活動部へご連絡ください。

4月 理事会報告

- 日時 2026年4月25日(土)14:00~17:00
- 会場 地域支援センターえがお2階会議室・WEB
- 出席者 (出席理事)31名中25名(出席監事)4名中3名
- 協議・報告事項

- 2025年度みえ医療福祉生協の活動の振り返りと2026年度活動方針案について討議しました。
- 5月~7月を「班づくり・班会開催月間」として各地域で班会を行い、健康づくりの取り組みを広げ新たなつながりづくりをすすめていくことを討議しました。
- 2025年度の経営報告として、事業収益は前年は上回ったものの予算比では99.1%の到達となりました。事業費用も予算比で98.2%と予算を下回ったことから経常剰余は予算、前年ともに上回ったことが報告されました。
- 2026年度の予算案について確認しました。

議決事項

- 2026年度総代会に向けた事前議決事項(開催日時、書面議決書の提出期限等)について確認しました。

エコチャレンジアイデアコンテスト

暮らしの
コラム

平和とエコの深～い関わり

三重民医連平和委員会では、2024年の平和学習会で「地球沸騰化」と平和のつながりについて学び、「環境と平和の関係」に着目。2025年7月～12月にかけて職員を対象に家庭や職場のエコな取り組みを募集しました。



平和委員が エコ活動?!

人間の活動で排出される二酸化炭素などの温室効果ガスが爆発的に増え地球の平均気温が上昇し続ける「地球沸騰化」が起っています。「地球沸騰化」は災害をもたらし、人々は食糧や水、住む場所を失い居住地を求めて移動しますが、移動先の資源にも限りがあります。資源確保のために他国の土地を奪う国や、人権侵害・環境破壊を伴う資源ビジネスをする企業もあり、気候変動が紛争や戦争の原因の一つになっています。

投稿
紹介

十人十色のアイデア

三重県各地域の職員からアイデアが集まり、5名に平和委員が考えた賞を進呈しました。

一石四鳥で賞

職場の休憩室の三角コーナーを牛乳パックに変更。消耗品の削減、清掃時間短縮、清潔保持、牛乳パックの再利用と一石二鳥にとどまらず一石四鳥!



これもエコで賞

マイボトルを活用。プラスチック量、石油やCO2を削減!



環境にやさしいで賞

キエーロで生ごみを分解。焼却せずに生ごみを処理するため、CO2削減やごみ袋が削減可能に!



職場でとりくみま賞

部屋から出る前に振り返り、消灯を確認。自宅でも職場でも取り組みやすい!



植物にもやさしいで賞

米の研ぎ汁を植物に。節水や土壌改良に!



小さなことから
コツコツ!

応募数が目標より少なく「企画の認知度と関心を知りたい」とシールアンケートを行い、多くの回答がありました。今年度は9月頃に職員だけでなく、組合員さんにもエコチャレンジの募集を呼びかけようと企画しています。些細な取り組みも、広がり、積み重なれば、大きな変化を生み出せます。一人ひとりのアクションで未来の平和につなげていきましょう! (三重民医連 平和委員会一同)

急募



看護師(病棟勤務)を募集しています

問い合わせ先

津生協病院・総務課
☎059-225-7170



津生協病院看護部HP

材料(6人分)

- 夏みかん 3~4個
- 粉寒天 4g
- 砂糖 100g
- 水 500cc

晩柑、グレープフルーツ、キウイなどでもおいしく作れます♪



津生協病院
加藤唯(調理師)

1人分
100kcal
塩分0g

作り方

- 夏みかんの皮を剥き果肉を取り出す。(多少崩れてもかまいません)
- 水、砂糖、粉寒天を計量し、鍋に入れる。よく溶かし、沸騰するまで火にかける。
- 火を止め、夏みかんの果肉を加える。
- 粗熱をとり、パッド又は器に流し入れ、冷蔵庫でよく冷やし、固める。
- 固まったらお好みの大きさに切り分けて、器に盛り付ける。

夏みかんの剥き方

- 夏みかんの上下を切り落とし、縦に4本の切り目を入れる。
- 切り目に沿って手で皮を剥き房ごとに分ける。
- 種側を調理用はさみかナイフで切り落とし、手で皮を外す。

とっておきレシピ



夏みかん
寒天

